



法の光

～法光山 妙勝寺 通信～

No.280

令和六年(2024年)2月22日 発行

文責：松田 龍顕

ホームページ <http://www.myosyoji.net/> 又は「法光山 妙勝寺」で検索

合掌

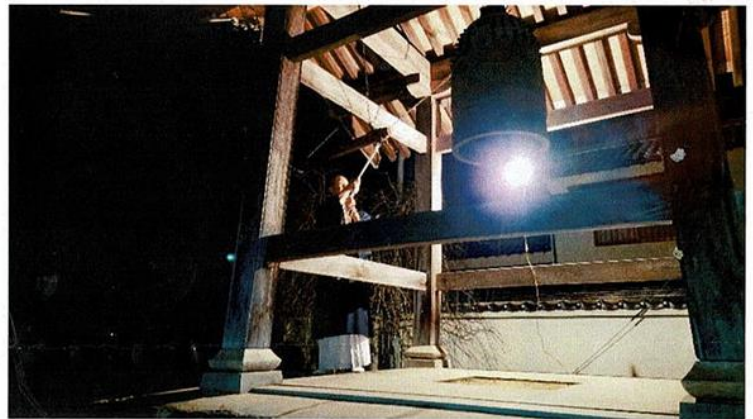
立春が過ぎ、今年は暖かい日が続き庭の水仙が咲いております。令和5年4月の就任以来、慌ただしく月日が流れまもなく一年が経過しようとしております。

今日まで支えてくださいました総代世話人・婦人会の皆様をはじめ、護持会の皆様に改めて御礼申し上げます。

◎住職として初めて迎えた年末年始

小雨が降る中でも多くの方が除夜の鐘つきにお見えになられました。

小さいお子様も多く、一生懸命に鐘をつく姿に心が和みました。



◎令和六年度星祭り

2月3日、当山 妙見堂に於いて御宝前を荘厳し供物を整え

日蓮宗大荒行堂にて相伝される修法という作法を用いて星札と参詣の方々に加持祈禱を行い、

一年間の息災と開運を祈念させて頂きました。



妙見堂にての修法加持は初めての事でしたが、無事終わることができ誠に有難く 仏さま・妙見さまへの感謝の想いに堪えません。

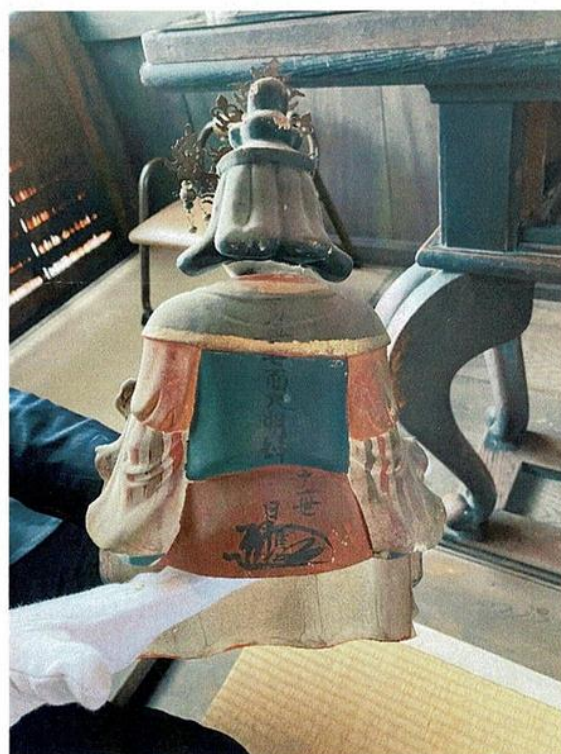
皆様のご多幸、ご健康を改めてお祈り申し上げます。

本年も宜しくお願い申し上げます



しちめんだいみょうじん
◎七面大明神

星祭りを厳修した妙見堂には、七面大明神しちめんだいみょうじんさまもお祀りされています。此度、宮殿くうでんからお出しし塵払いをさせて頂きました。お像の背面には『第十一世 日應上人』のお名前が記されておりました。第十一世さまは享保十三年(1728年)に妙勝寺きょうほうに就かれておりますから、この七面さまは約300年前から檀信徒の方々に信仰されていた事が伺えます。多少の色褪せこそありますが、状態をみるに、恐らく一度も修復や塗替えを経る事なく当時のお姿のまま、今日に至るまでお祀りされてきた貴重な状態だと思われます。しかしながら、左目の部分にひび割れと思われる損傷により玉眼(ガラスの眼)がむき出しになってしまい、心苦しい状態となっております。



現段階では修復が可能な状態
であります。又、役員の皆様
の中でもこの機会に修復して
はどうかという等の御意見も
頂戴致しました。

妙勝寺はまもなく創建500年
を迎えますが、これから先の
時代へ守り継いでいく為にも
修復出来ればと思っています



しちめんだいみょうじん
◎七面大明神さまについて

日蓮聖人は晩年、山梨県の身延の山に草庵を構え門弟や信徒たちへ法華経を広めていきました。そして現在では身延山には日蓮宗の総本山・久遠寺があります。その身延山の南西に七面山という山があり、日蓮聖人以前の頃から山岳修行の霊山として信仰されてきました。伝承では、身延山に入った日蓮聖人が弟子・信徒に説法をする場に、ある時から見慣れない美しい女性が現れ説法を聴聞するようになったそうです。次第に周囲の人達もその事に気付き不審に思い始めると、日蓮聖人は女性に本当の姿を見せるように促します。女性はたちまちに緋色に輝く龍へと姿を変え『私は七面山に住み身延一帯を守護しております』

『法華経を信じる人を護り、やすらぎを与えましょう』と言うと

七面山の方角へ飛び去って行ったと伝えられています。

そのため、日蓮宗では七面大明神さまを法華経の守護神として多くの寺院でお祀りしております。



令和六年春季彼岸施餓鬼法要の御案内

～三月二十三日(土) 午後一時 開式～

三月は春のお彼岸法要がございます。

御宝前に法華経とお題目をお唱えし、

仏様へ報恩感謝の気持ちと

ご先祖への追善供養をお祈りしましょう

多くの方々のご参詣をお待ちしております。

お彼岸法要ではお塔婆のお申し込みを承っております

ご希望の方は、同封の葉書にてお申し込み下さい

令和六年十月二十日(日)

創建 500 周年記念法要

を予定しております

これから役員の皆様、実行委員会の皆様を中心に

準備して参ります

